

# 長崎県 教職教養実施問題速報 (2025年5月11日実施)

## 出題傾向

長崎県では、2025年度までは「教職・一般教養」として出題されていたが、2026年度からは一般教養分野が廃止され、教職教養のみの出題となった。それに伴い、小問数も従来の50問から35問へと減少している。出題形式は空欄補充が中心だが、四肢択一による語句選択問題や正誤問題も含まれている。全体として、思考力を問う問題も一定数含まれており、出題分野のバランスも取れた問題であった。難易度はおおむね標準的であるといえる。

## 出題例

### 1 次の各問いに答えなさい。

問1 次の文は、「生徒指導提要(令和4年12月 文部科学省)の「第1章 生徒指導の基礎」の「1.2 生徒指導の構造」の「1.2.3 課題予防的生徒指導：課題未然防止教育」と「1.2.5 困難課題対応的生徒指導」の一部を抜粋したものである。文中の□1～□4に当てはまる語句を後の①～⑫の中からそれぞれ1つずつ選び、番号で答えよ。

#### 1.2.3 課題予防的生徒指導：課題未然防止教育

課題予防的生徒指導は、課題未然防止教育と課題早期発見対応から構成されます。課題未然防止教育は、□1の児童生徒を対象に、生徒指導の諸課題の未然防止をねらいとした、意図的・組織的・系統的な教育プログラムの実施です。

具体的には、いじめ防止教育、□2を含む自殺予防教育、薬物乱用防止教育、情報モラル教育、非行防止教室等が該当します。

困難課題対応的生徒指導においては、学級・ホームルーム担任による個別の支援や学校単独では対応が困難な場合に、生徒指導主事や□3を中心にした校内連携型支援チームを編成したり、校外の専門家を有する関係機関と□4したネットワーク型支援チームを編成したりして対応します。

- |                 |         |          |
|-----------------|---------|----------|
| ① スクールソーシャルワーカー | ② 全て    | ③ 特定     |
| ④ 社会的スキル教育      | ⑤ 相談・共有 | ⑥ 道徳教育   |
| ⑦ SOSの出し方教育     | ⑧ 連携・協働 | ⑨ 養護教諭   |
| ⑩ 教育相談コーディネーター  | ⑪ 協同・管理 | ⑫ 気になる一部 |

問2 文部科学省初等中等教育局児童生徒課による「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果及びこれを踏まえた対応の充実について(通知)」(令和6年10月31日)の「2. いじめの問題への対応について」の内容として正しいものを次の①～④の中から1つ選び、番号で答えよ。

- ① 今回の調査によると、令和5年度の小・中・高・特別支援学校におけるいじめの認知件数は約53万3千件と過去最少となった。一方で、児童生徒1千人当たりのいじめ認知件数の都道府県間における差は、約6.6倍と依然として大きい。
- ② 令和5年度中にいじめを認知していない学校にあっては、真にいじめを根絶できているので、いじめの認知件数が0件であったということを見守りや保護者向けに公表し、詳細な検証を行う必要性はない。

- ③ GIGA スクール構想が進展する中、1人1台端末等を使いたいじめが発生する可能性があることにも留意が必要であるが、教師が児童生徒の書き込みを確認できる設定にすることは、信頼関係を損なう行為であるため控えること。
- ④ 重大ないじめ事案や犯罪行為に相当するいじめなど学校だけでは対応しきれないいじめについては、警察と緊密に連携して対応することが求められている。

## 2 次の各問いに答えなさい。

問1 次の(1)～(3)の文と最も関係の深いものを以下の①～⑨の中からそれぞれ1つずつ選び、番号で答えよ。

- (1) マレーとモーガンによって考案された投影法による心理人格検査であり、クライアントの空想力を刺激する比較的あいまいな絵について、物語をつくらせ、その内容から個人の性格を診断しようとする検査法である。
- (2) ミネソタ大学のハサウェイとマッキンリーにより開発された、質問紙法による性格検査であり、550項目で構成されている。尺度には妥当性尺度と臨床尺度、追加尺度がある。
- (3) コッホによって創始された、投影法による性格検査であり、被検査者に「実のなる樹木を1本」描かせ、その図を評定する検査法である。

- ① P-F スタディ      ② ソンディ・テスト      ③ WISC
- ④ YG 性格検査      ⑤ MMPI      ⑥ TAT
- ⑦ SCT      ⑧ ロールシャッハ・テスト      ⑨ バウム・テスト

問2 ある生徒が部活動を選択する際に、サッカー部もよいが、水泳部にも魅力を感じていて、どちらに入部しようか迷うときに感じている葛藤の種類はどれか。次の①～④の中から1つ選び、番号で答えよ。

- ① 接近-接近の葛藤      ② 接近-回避の葛藤
- ③ 回避-回避の葛藤      ④ 二重接近-回避の葛藤

問3 次の①～④の文のうち、それぞれの下線部の説明として誤っているものを1つ選び、番号で答えよ。

- ① 自分の感情を無意識のうちに他者に投げ入れ、その感情を他者がもっていると知覚することを投影という。
- ② 練習したことのない非利き手で字が書けることを、利き手での学習が昇華したという。
- ③ 試験で良い点数を取ればゲームソフトを買ってもらえるため、一生懸命に勉強するなど、報酬が目的となっている際の動機づけを外発的動機づけと呼ぶ。
- ④ 多くの人にあてはまるような一般的なパーソナリティ記述を、自分にあてはまる正確なものとして受容する傾向をバーナム効果という。

問4 心理学の研究者について述べた次の①～④の文のうち、内容として正しいものを1つ選び、番号で答えよ。

- ① ヴィゴツキーは、子どもの道徳判断は段階的に発達していくと考え、道徳的な価値志向について3水準6段階に分類した。
- ② スキャモンは、20歳を100%としたときの各身体発達を一般型、神経型、リンパ型、生殖型に分類しS字曲線で示した。
- ③ ユングは、下位の動機が満足されたとき、初めて上位の動機が現れるという動機の階層説を提起し、自己実現の動機を重視した。
- ④ マズローは、ソシオメトリーの創始者である。集団での対人関係を明らかにするのに有効なソシオメトリック・テストは、ソシオメトリーの理論に沿って行われる。

**3** 次の各問いに答えなさい。

問1 次の文は、「第4期教育振興基本計画」(令和5年6月16日 閣議決定)の「Ⅱ. 今後の教育政策に関する基本的な方針」の「④教育デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進」の一部を抜粋したものである。文中の□1～□4に当てはまる語句を以下の①～⑫の中から1つ選び、番号で答えよ。

- 初等中等教育においては、学習の基盤となる資質・能力としての□1を育成するとともに、そのための教師の指導力向上・ICT環境整備の更なる充実が求められる。また、デジタル教科書・教材・学習支援ソフトの活用に向けた取組の推進、クラウド活用による次世代の校務DXを通じた□2や学校における働き方改革にも取り組む必要がある。
- 高等教育においては、コロナ禍において世界的に遠隔・オンライン教育が進展し、高等教育の新たな可能性を開くものとなった。面接授業と遠隔授業を効果的に組み合わせたハイブリッド型教育やデジタルを活用した教育の高度化を図るとともに、□3等の履修促進などを進めることが求められる。また、社会のDXを支えるDX人材の養成も重要である。
- (中略)
- これらの取組の推進に当たっては、デジタル社会の正負の側面にも留意しつつ、□4やサイバーセキュリティの知識を身に付け、自分で考え行動できる力を育むことも求められる。その際、地域や学校間の格差拡大につながらないように、十分な支援が必要である。

- |                    |                 |               |
|--------------------|-----------------|---------------|
| ① 道徳的規範            | ② 思考力・判断力       | ③ 情報活用能力      |
| ④ カリキュラム・マネジメントの推進 | ⑤ 教育データの利活用     | ⑥ 対話型生成AIの活用  |
| ⑦ データサイエンス         | ⑧ デジタルリテラシー     | ⑨ 安全に関する資質・能力 |
| ⑩ 社会を生き抜く力         | ⑪ キャリア形成促進プログラム | ⑫ 国際的な教育プログラム |

問2 次の文は、「こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律(平成25年法律第64号)の一部を抜粋したものである。文中の□1・□2に当てはまる語句を以下の①～⑥の中からそれぞれ1つずつ選び、番号で答えよ。

こどもの貧困の解消に向けた対策の推進に関する法律 第1章

第3条 こどもの貧困の解消に向けた対策は、社会のあらゆる分野において、こどもの年齢及び発達の程度に応じて、その意見が尊重され、その□1が優先して考慮され、こどもが心身ともに健やかに育成されることを旨として、推進されなければならない。

2 こどもの貧困の解消に向けた対策は、貧困により、こどもがその権利利益を害され及び社会から□2することが深刻な問題であることを踏まえ、こどもの現在の貧困を解消するとともにこどもの将来の貧困を防ぐことを旨として、推進されなければならない。

- ① 社会的権利    ② 生活環境    ③ 最善の利益    ④ 逸脱する    ⑤ 孤立する    ⑥ 拒絶される

●●● 解答・解説 ●●●

**1** 問1 ① ② ⑦ ③ ⑩ ④ ⑧ 問2 ④

**解説** 問1 課題予防的生徒指導に対して、課題早期発見対応では、課題の予兆行動がみられたり問題行動のリスクが高まったりしたときに、深刻な問題に発展しないようように、初期の段階で発見し、対応することである。問2 ① 「令和5年度のいじめ認知件数は過去最少」とあるが、これは誤りである。文部科学省の調査によれば、いじめの認知件数は過去最多となっており、73万3千件が正しい数値である。また、都道府県間のばらつきが6.6倍あるという点は正しいが、全体の主張として事実誤認があるため不適切である。② 「いじめの認知件数が0件である学校は、いじめを根絶でき

ているため、詳細な検証を行う必要はない」とする記述は、通知の趣旨に反する。文部科学省は、いじめの認知件数が0件である場合でも、いじめが見逃されている可能性があることを前提に、児童生徒の実態を改めて確認し、丁寧な検証を行う必要があるとしている。したがって、この選択肢は誤りである。③ GIGA スクール構想に関連して「教師が児童生徒の書き込みを確認できる設定にすることは控えるべき」と述べているが、これも誤りである。実際には、いじめ防止の観点から、教師等が書き込みを把握・確認できる設定とすることが推奨されており、学校や教職員による適切なモニタリングが求められている。信頼関係を損なうことが懸念される場合でも、児童生徒の安全確保を優先する必要がある。

④ 「重大ないじめ事案や犯罪行為に相当するいじめについては、警察と緊密に連携して対応することが求められている」との記述は、通知の内容と合致している。文部科学省は、学校単独での対応が困難な事案については、関係機関（特に警察）との連携を強化することを明確に求めており、この選択肢は正しい。

## 2 問1 (1) ⑥ (2) ⑤ (3) ⑨ 問2 ① 問3 ② 問4 ②

**解説** 問1 (1) TAT (主題統覚検査, Thematic Apperception Test) は、マレーとモーガンによって開発された投影法の人性格検査である。被検査者に曖昧な絵を見せて物語を語らせ、その内容から欲求や主題を読み取る方法であり、人性格の理解に用いられる。よって、正答は⑥。(2) MMPI (ミネソタ多面的人格目録, Minnesota Multiphasic Personality Inventory) は、ハサウェイとマッキンリーにより開発された質問紙法による性格検査であり、550項目(改訂版では567項目)から構成される。妥当性尺度、臨床尺度、追加尺度があり、臨床心理学の分野で広く用いられる。よって、正答は⑤。(3) バウムテストは、コッホによって創始された投影法の性格検査であり、「実のなる木」を1本描かせるものである。描かれた木の形、位置、筆圧などから心理的特徴を評価する。よって、正答は⑨。問2 本問は、レヴィンの葛藤理論に基づく選択である。サッカー部にも水泳部にも両方に魅力を感じていて迷っている状況は、どちらも好ましい選択肢(接近)であり、両者のどちらかを選ぶ必要がある葛藤である。これは典型的な「接近-接近の葛藤」である。その他の葛藤の種類: 接近-回避の葛藤: 一つの対象に魅力と嫌悪の両面がある。回避-回避の葛藤: どちらも避けたい嫌な選択肢から選ばねばならない。二重接近-回避の葛藤: 複数の対象に魅力と嫌悪の両面がある。よって、正答は①。問3 ① 投影: 自分の感情や欲望などを無意識に他者に転嫁し、他者がそうであるかのように認知する心理的防衛機制であり、正しい。② 昇華: 社会的に受け入れられにくい欲求を、文化的・芸術的・知的活動などに転化して満たすことである。利き手の学習が非利き手に移る現象は、「転移」または「一般化」に関係するものであり、昇華とは無関係である。よって、誤り。③ 外発的動機づけ: 報酬や罰などの外的要因によって行動を起こす動機づけであり、記述は正しい。④ バーナム効果: 誰にでもあてはまりそうな曖昧で一般的な性格記述を、自分にぴったりだと思込む傾向であり、記述は正しい。よって、誤っているのは②。問4 ① ヴィゴツキー: 社会文化的発達理論や発達の最近接領域(ZPD)を提唱した人物であり、道徳判断の段階理論はローレンス・コールバーグによるものである。よって誤り。② スキャモン: 発育曲線(スキャモンの発育曲線)で知られ、身体の各部分の成長を4型(一般型、神経型、リンパ型、生殖型)に分類した。曲線の形は必ずしもS字ではないが、分類自体は正しく、内容として正しい。③ ユング: 元型や集合的無意識などの概念で知られるが、動機の階層説を提唱したのはマズローである。したがって誤り。④ マズロー: 自己実現理論や欲求階層説を提唱した人物であり、ソシオメトリーの創始者はヤコブ・モレノである。したがって誤り。よって、正しいのは②。

## 3 問1 1 ③ 2 ⑤ 3 ⑦ 4 ⑧ 問2 1 ③ 2 ⑤

**解説** 問1 本計画は、教育のDX推進を重要課題として掲げている。初等中等教育では、将来に必要な情報活用能力を育成するため、教員のICT指導力向上やICT環境の整備を進めることが求められる。デジタル教科書や学習支援ソフトの活用、校務のクラウド化による働き方改革も推進される。高等教育では、コロナ禍で急速に広まった遠隔・オンライン教育を活用し、面接授業と遠隔授業を組み合わせ合わせたハイブリッド型教育やデジタル教育の高度化を図る。また、データサイエンスの履修促進やDX人材の養成も重要視されている。これらの取り組みでは、デジタル社会のリスクにも注意を払い、デジタルリテラシーやサイバーセキュリティの教育を通じて、自ら考え行動する力を育てることが必要である。さらに、地域や学校間の格差が拡大しないよう、十分な支援が不可欠である。問2 本法律は、こどもの貧困を解消するための対策を社会全体で推進することを目的としており、同法第3条は、こどもの貧困対策の基本方針を示している。対策は、こどもの年齢や発達に応じて意見を尊重し、こどもの最善の利益を優先して推進されるべきである。また、貧困によりこどもが権利を害され、社会から孤立する深刻な問題を踏まえ、現在の貧困解消と将来の貧困防止を目指すことが求められている。社会全体でこどもの健やかな成長を支えることが法律の趣旨である。